

# 基礎科学分野

自然の成り立ち

授業科目	物理学	科 責 任 者	三石 孟	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		学 調 整 者 内	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	自然科学の基礎学問としての物理学の基本を理解する。物理法則に基づく自然理解の方法を把握する。						
	到達 目標	1. 基本的な物理学の項目について現象、理論、法則性を学ぶ。 2. 生命現象と物理法則の関わりの例示や医療機器との関連を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	波動のしくみ、光と音	[講義] 干渉回折、全反射、ドップラー効果、レーザ、電磁波、超音波、現代物理学と先端医療について学習する。					三石	
2	熱と温度	[講義] 物質の相と熱、分子の熱運動と分子結合、不可逆現象、体温制御の物理について学習する。					三石	
3	電気と磁気	[講義] 基本粒子と電荷、超伝導、感電、電磁相互作用、ローレンツ力について学習する。					三石	
4・5	電子、原子核、素粒子	[講義] 原子のエネルギー準位、発光、元素の起源、放射性崩壊、核反応、素粒子の階層構造、高エネルギー粒子について学習する。					三石	
6	力学	[講義] 円運動、運動量・力学エネルギーの保存、血圧測定の物理、介護動作の物理について学習する。					三石	
7	現代物理と最先端医療	[講義] 粒子加速器利用の最先端医療、電離放射線被爆について学習する。					三石	
8	評価						三石	
教科書	「シッフマン自然科学入門増補改訂版 新物理学」シッフマン著、勝守寛監訳、学術図書、2002年		参考書等	「物理学への誘い」大貫惇睦編、大阪大学出版会、2003年 「新目で楽しむ量子力学の本」大場一郎訳、丸善、2007年 「医歯薬系の物理学」林一他著、丸善、2002年				
履修条件	なし		評価方法	1. 定期試験レポート(50%) 2. 小レポート(40%) 3. 参加態度(10%)				
備考	例示実験等から数式をあまり使わないで物理のおもしろさの一端を実感することができる。物理と看護・医療との密接な繋がりも俯瞰できる。オフィスアワーも適宜設ける。最先端の物理学の一端に触れるため、高エネルギー加速器等を備えた研究所の見学等も可能である。予習・復習の際には他の教科での内容との繋がりも整理していくこと。							

授業科目	化学	科 任 者 目 録	二瓶 賢一	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし	
		調 整 者 内	平尾 温司	時間数	15	受講semester	1・2年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	物質や分子、原子の担う現象、つまり物質のありかたと化学反応について理解する。							
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子と分子の構造、分類、性質と化学反応との関係を理解する。</li> <li>2. 酸-塩基反応と化学平衡を理解する。</li> <li>3. 基本的生体構成成分を理解する。</li> </ol>							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	毒ガスの化学	[講義] 毒ガスの話を通して、原子と分子の構造、分類、性質および化学反応性について、キーワード：原子価、パウリの排他原理、塩素。					二瓶		
2	日焼けの化学	[講義] 日焼けの話を通して、原子と分子の構造、分類、性質と化学反応性および生体構成成分について、キーワード：紫外線、ラジカル、光合成。					二瓶		
3	温泉の化学	[講義] 温泉の話を通して、化学反応、化学平衡、熱力学および生体構成成分について、キーワード：エントロピー、ラドン、タンパク質の変性。					二瓶		
4	お菓子の化学	[講義] お菓子の話を通して、化学平衡、酸化還元、熱力学および生体構成成分について、キーワード：熱量、甘味料、ビタミンC。					二瓶		
5	点滴の化学	[講義] 点滴の話を通して、原子と分子の構造、性質、酸-塩基反応および溶液の性質について、キーワード：イオン、pH、緩衝液。					二瓶		
6	消毒の化学	[講義] 消毒の話を通して、原子と分子の構造、性質および生体構成成分について、キーワード：石けん、界面活性剤、抗生物質。					二瓶		
7	高山病の化学	[講義] 高山病の話を通して、原子と分子の性質、生体構成成分および気体の性質について、キーワード：理想気体、分圧、麻酔。					二瓶		
8	試験						二瓶		
教科書	なし			参考書等	「有機化学概説」J. McMurry 著、東京化学同人、2017年 「化学入門」下井守他著、東京化学同人、2005年				
履修条件	なし			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験(60%)</li> <li>2. 小テスト(30%)</li> <li>3. 授業態度(10%)</li> </ol>				
考 備	講義の予習・復習を行ってください。予習として、インターネット等を活用し、「学習内容ならびに方法」に記載したキーワードについてあらかじめ調べること。また、板書事項の復習を行うこと。								

授業科目	生物学	責任者 目	井口 智文	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者 内	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	生物学および基礎医学系科目を学ぶ上での基礎知識を習得する。						
	到達 目標	1. 生体の最小単位である細胞の構造とその機能を理解する。 2. 遺伝情報の伝達と発現を理解する。 3. 生殖や動物の身体を構成する器官を理解する。 4. 生物と環境の関係について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	生物の分類・生物と環境	[講義] 生物の持つ共通性、生物の分類、生物と環境の関係について学習する。					井口	
2	細胞の構造と機能	[講義] 細胞小器官について学習する。					井口	
3	生体エネルギー生産	[講義] 細胞呼吸（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）について学習する。					井口	
4	遺伝子の構造と機能	[講義] 転写・翻訳・複製と発現調節について学習する。					井口	
5	細胞分裂	[講義] 体細胞分裂および減数分裂について学習する。					井口	
6	動物の発生	[講義] 両生類と哺乳類の発生について学習する。					井口	
7	動物の器官系	[講義] 消化系、呼吸系、循環系および排出系について学習する。					井口	
8	試験						井口	
教科書	「ニューステージ新生物図表」浜島書店編集部、浜島書店、2019年			参考書等	「やさしい基礎生物学 第2版」南雲保編著、羊土社、2014年 「生命科学のための基礎 生物」大島泰郎監修、実教出版、2004年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（100%）			
備考	本講義は、高校までに学んできた生物領域の内容を整理し深め基礎医学系科目を学ぶ上での基礎知識を習得する科目である。各回に該当する教科書部分を事前に目を通し授業に参加するとともに、ノート整理などを通じて事後学習を行うこと。							

授業科目	人体科学の基礎	科目責任者	倉科 智行	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	人体科学を学ぶために必要な、自然科学の諸領域の基礎を横断的に理解する。						
	到達目標	1. 人体科学を学ぶために必要な、自然科学の基礎を理解する。 2. 自然科学の諸領域間の有機的連関を把握する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	総論・単位	[講義] 自然科学系学科目の基礎を概観し、人体科学を理解するために必要な「単位」の意味について、分野横断的に学ぶ。					倉科	
2	人体の成り立ち	[講義] 細胞の成り立ちと仕組みを学習し、人体の構造の基礎について学ぶ。					倉科	
3	生殖と死	[講義] 遺伝の学習を通じ、生殖と死について考える。					倉科	
4	恒常性	[講義] 生命維持の仕組みを考える。					倉科	
5	生命反応と物質	[講義] 生命反応を、主に生化学の観点から学ぶ。					倉科	
6	電気と波	[講義] 生命反応を、主に物理学の観点から学ぶ。					倉科	
7	医療安全と医療教育	[講義] ヒューマンエラーの科学的解析と医療安全対策の基礎を学習する。またこの学習を通じ、自らの経験をどのように看護の学びに活用するかを考える。					菱川	
8	評価						倉科	
教科書	なし (DVD教材とプリントを用いる)			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート (80%) 2. 学習態度 (20%)			
備考	理科系科目に苦手意識がある学生、十分学べてこなかった自覚がある学生の受講を歓迎する。各回の学習課題についての予習と講義の復習をしっかりと行い、理解を深めてほしい。							

授業科目	医療とバイオテクノロジー	科目責任者	平尾 温司	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	15	受講semester	1・2年次前学期	
学習目的と目標	目的	バイオテクノロジーは、古くは発酵食品の生産から始まり、現在では遺伝子組み換えの発展とともに農業生産や環境、および医療に利用されている。本科目はバイオテクノロジーの基礎知識の習得および産業への応用等、幅広い見識を持たせることを目的とする。						
	到達目標	1. 遺伝子組換え技術の基礎的知識の習得する。 2. バイオテクノロジー技術の医薬品を含めた産業への応用について理解する。 3. 最新の再生医療に関する基礎的知識を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1.	バイオテクノロジーの歴史	[講義] バイオテクノロジーとは何か。発酵食品や動植物の品種改良から現代までのバイオテクノロジーの歴史について学習する。					平尾	
2	グリーンバイオテクノロジー	[講義] 遺伝子組換え技術農作物と機能性農作物、花粉症治療米や無花粉スギについて学習し、遺伝子組換えの基礎技術について学習する。					平尾	
3	バイオテクノロジーの動物への応用	[講義] ヒトの不妊治療の基礎となる動物の人工授精、胚移植、体外受精、緑色蛍光タンパクやクローン動物等について学習する。					平尾	
4	バイオテクノロジーがもたらした医薬品	[講義] ペニシリンの発見から遺伝子組換え技術によって作製されるヒトインスリンやヒト成長ホルモンについて学習する。					平尾	
5・6	再生医療とバイオテクノロジー	[講義] 近年、話題になっているES細胞やiPS細胞などについて学ぶとともに再生医療の可能性と最新事情について学習する。					平尾	
7	ゲノム編集およびゲノム医療	[講義] 近年、開発されたゲノム編集技術およびゲノム医療について学習する。					平尾	
8	評価						平尾	
教科書	指定せず。			参考書等	「高校生からのバイオ科学の最前線」 生化学若い研究者の会著、日本評論社、2014年			
履修条件	なし			評価方法	1.レポートによる評価(80%) 2.学習態度(20%)			
備考	予習は必要としない。毎回、講義資料を配布するので復習に利用すること。							

授業科目	災害学	責任者	米川 力	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	大塚 公一郎	時間数	15	受講semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	災害の概念と関連する法、防災とまちづくり、災害医療、看護について理解を深める。						
	到達目標	1. 災害の定義と類型を理解する。 2. 自然災害や人災の代表的な事例を理解し、関連法の基本を理解する。 3. 防災とまちづくりについて理解する。 4. 災害医療・看護の基本を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	災害とは	[講義] 災害看護の歴史、現状、課題について事例を元に理解する。					米川	
2	災害と医療	[講義] 災害医療 (DMAT) の活動を理解する。					阿野	
3	災害看護の実際	[講義] 災害看護の実践に必要な知識や技術について事例を元に理解する。					谷島	
4	防災と街づくり	[講義] 消防の立場からの防災のためのまちづくり・システム作りを理解する。					秋山	
5	国の政策と法律	[講義] 災害看護を实践する上で必要な国の政策や災害関連法規について理解する。					米川	
6	心のケア	[講義] 被災者と救援者に対する心のケアの重要性を理解する。					米川	
7	災害対応の実践	[演習] 災害対応ゲームを用いたシミュレーションを行い、実際の災害現場での対応を考える。					米川	
8	試験						米川	
教科書	講義配布資料	参考書等	「災害看護 改訂第2版」小原真理子 酒井明子、南山堂、2012年 「看護の統合と実践③ 災害看護」酒井明子、メディカ出版、2017年 「看護管理者の判断と行動」山崎達枝、日総研、2011年 「災害派遣シミュレーション Q&A」山崎達枝、日本看護協会出版、2013年					
履修条件	なし	評価方法	筆記試験 (100%)					
備考	頻発する災害発生時にどのように対応すべきかの基本を学ぶ科目である。 事前学習として、以下の冊子を熟読すること ①栃木県看護協会 HP 内の「災害看護マニュアル」 <a href="http://www.t-kango.or.jp/images/download/rsaigai2013.pdf">http://www.t-kango.or.jp/images/download/rsaigai2013.pdf</a> ②「スフィア・ハンドブック」 <a href="https://www.refugee.or.jp/sphere/The_Sphere_Project_Handbook_2011_J.pdf">https://www.refugee.or.jp/sphere/The_Sphere_Project_Handbook_2011_J.pdf</a> ③内閣府 HP 「避難所運営ガイドライン」 <a href="http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf">http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1604hinanjo_guideline.pdf</a>							

授業科目	宇宙学	責任者	大森 理恵	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	倉科 智行	時間数	15	受講 Semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	宇宙の生成と現状についての理論と観測結果を理解し、私たちが置かれた宇宙空間について把握する。						
	到達目標	1. 人類が歩んできた宇宙探究の歴史と今を理解する。 2. 恒星と惑星、太陽系を理解する。 3. 銀河宇宙の成り立ちを理解する。 4. 宇宙の誕生とその後の変化についての理論を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	現代の宇宙の姿	[講義] 古典宇宙論：天動説から地動説へ、コペルニクス、ガリレオの登場、ケプラーの法則とニュートン 宇宙のスペック：大きさ、密度、温度、形、構成物、年齢等 宇宙の階層構造：恒星、惑星、衛星、小惑星、太陽系、銀河、銀河団、超銀河団 以上の項目について学習する。					大森	
3・4	宇宙からの信号とそのキャッチ、宇宙の探査	[講義] 宇宙からの信号：宇宙線（電磁波、粒子線、重力波）とその源（ガンマ線バースト、超新星爆発、パルサー、クエーサー等） 信号のキャッチ：ハッブル宇宙望遠鏡、赤外線望遠鏡すばる、ガンマ線望遠鏡、重力波望遠鏡、宇宙ステーション 宇宙探査：月面探査、惑星探査等 以上の項目について学習する。					大森	
5・6	宇宙のはじまりと進化	[講義] 宇宙の始まり：ハッブルの法則、ビックバン宇宙、宇宙背景放射、膨張宇宙 星の進化：4つの基本的な力、星間ガス、原始星、主系列星、赤色巨星、白色矮星、超新星爆発、中性子星、ブラックホール 以上の項目について学習する。					大森	
7	地球、生命の誕生	[講義] 地球の誕生、生命の誕生、宇宙の元素分布、水、生体高分子、地球外の生体関連分子 以上の項目について学習する。					大森	
8	試験						大森	
教科書	指定しない	参考書等	「宇宙に果てはあるか」、吉田伸夫、新潮社、2007年 「星と宇宙」、黒星瑩一訳、共立出版、1998年 「宇宙は何でできているのか」、村山斉、幻冬舎新書、2010年 「137億年の物語」、クリストファー・ロイド、文藝春秋、2012年					
履修条件	なし	評価方法	1. レポート（60%） 2. 受講態度（40%）					
備考	宇宙への知見を紹介する。関連する基本的事項も交えて解説し理解しやすいように心がける。また、身近な天文ニュース等もトピックスとして取り上げてゆくので、日頃の報道に注目しつつ、天体現象の観察等参加可能な場合には積極的に参加・体験することを希望する。特に予習は必要としないが、授業中に自分ノートを作るよう心掛けてほしい。能動的に宇宙観をはぐくめるよう補足的な勉強の相談にも応じる。							



# 基礎科学分野

人間の本質の理解

授業科目	哲学	責任者 目	小野 純一	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者 内	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1・2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	人間、身体、精神、存在、自己、世界、宇宙などの意味について考察する。						
	到達目標	1. 目的に記したようなキーワードを検討し、その意味するところを考える。 2. 哲学的な物事の捉え方、思考のすすめ方を、事例を通して学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	実在	[講義] 常識や感覚は信頼できるのか、疑うべきか。現実と幻覚や夢との区別はいかにして可能なのか。実在論、観念論、独我論と呼ばれる問題、外界と私の関係を考える。					小野	
2	科学	[講義] 現実を客観的に捉えることは可能なのか。それを目指す科学的な考え方は、どのようになされるのか。説明の限界や科学主義に対する批判を考える。					小野	
3	心	[講義] 心、精神、思考などと言われるものについて議論する。それは物体や身体とどう違うのか、そもそも区別できるのか。二元論の克服という観点から考える。					小野	
4	倫理	[講義] 絶対的な正しさ、不正、善悪の根拠を示すのか。徳、博愛、正直、勇気、寛容、忠誠などで表されるよく生きることについて、さらには安楽死、動物実験などの是非を考える。					小野	
5	政治	[講義] 平等、自由、民主主義などを政治哲学の角度から考える。差別や逆差別、民主主義のパラドックス、言論の自由がはらむ問題、刑罰という抑止・防衛・矯正についても考える。					小野	
6	宗教	[講義] 神や信仰について哲学の問題として考察する。絶対的なものは存在するのか、それを考えることは可能なのか、宗教や信仰の意義と問題は何かについて考える。					小野	
7	芸術	[講義] 美とは何か、それは善と異なるのか。宗教や科学に対する、芸術・音楽・美術・演劇などの営みの関係、その意義について考える。					小野	
8	評価						小野	
教科書	プリント資料を配布。			参考書等	「哲学入門」ラッセル、筑摩書房、2005年 「哲学ってどんなこと？」トマス・ネーゲル、昭和堂、1993年 「哲学の歴史」新田義弘、講談社、1989年。			
履修条件	なし			評価方法	1. 毎回のミニレポートの合計(70%) 2. 最終回のレポート(30%)			
備考	思考し、自分の経験を豊かにするのが好きな人。上記の講義内容に関心がある人に履修を勧める。授業で配布する資料で予習するほか、議論への参加したりやレポート作成や読書も必要。講義でとったノート、参考書のほか、講義中に紹介する本などを、講義外での復習に役立てること。							

授業科目	倫理学	責 任 者	小野 純一	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調 整 者	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	社会的規範（ルール）や道徳的判断、道徳的価値について考察する。						
	到達目標	1. 社会的規範や道徳の意味を考え、それらの必要性を理解する。 2. 道徳的価値判断ができる能力を身につける。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	倫理学とは何か	[講義] 倫理学の基本的考え方について学ぶ。よく生きるという意味での徳とは何か。導入として、主要な道徳理論を概観する。					小野	
2	徳倫理学	[講義] 行為の善さではなく、行為する者の性格の善さを重視する徳倫理学を、アリストテレスに依拠しつつ学ぶ。					小野	
3	義務論	[講義] 行為の動機の善さを重視する義務論の代表として、カントの倫理学を学ぶ。					小野	
4	功利主義	[講義] 行為の帰結・結果の善さを重視する帰結主義の代表として、ベンサムとミルの功利主義を学ぶ。					小野	
5	ケアの現象学	[講義] ベナー/ルーベルの看護論、「気づかい」の問題を考察し、「気づかい」の重要性、その倫理的意義について考える。					小野	
6	ケア倫理と身体	[講義] 視線や手を触れるという身体的コミュニケーションの観点から看護ケアの倫理を考える。					小野	
7	弱者と考える倫理	[講義] 植物状態の患者とのコミュニケーションという観点から看護という営みの意義、看護ケアの倫理を考える。					小野	
8	評価						小野	
教科書	なし			参考書等	J. レイチェルズ「現実をみつめる道徳哲学」 晃洋書房、2017年 R. ノーマン「道徳の哲学者たち—倫理学入門」 ナカニシヤ出版、2001年			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験（90%） 2. 学習態度（10%）			
備考	「看護倫理学」をはじめ生命倫理や医療倫理を扱う科目の基礎となる科目である。毎回10分程度、前の回の講義内容に関してディスカッションを行う。予習は配布資料をもとに行い、復習は配布資料の他、ノートおよび授業で紹介する参考書にあたって行うこと。							

授業科目	歴史学	科目 責任者	瀧音 大	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者 学内	大塚 公一郎	時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	地域に暮らす人々の生活・意識の特性と変容を、歴史的な視点から理解する。						
	到達 目標	ある時代、ある場所に暮らす人々が、生活を大きく左右する地域の自然・環境、生業形態、社会組織・制度などにどのように適応し、また変化を試みたか、その過程と意義を学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	なぜ歴史を学ぶのか	[講義] 人々の行動は、時間の流れとともに変化する。歴史を学ぶことは、他者理解の方法のひとつであることを知る。					瀧音	
2	暮らしと食の地域史	[演習] 化学合成肥料や農薬を利用しない農家を訪問し、なぜ古い農法が必要なのかを伺い、農村・山村の伝統生業や食文化と現代生活の比較から、人の健康について考える。					瀧音	
3	病いと医療の地域史	[講義] 医術・医学や関連する制度・資源と、健康・病いのイメージや受療行動は、各時代における相互作用のなかで変わる。医療と人間との関係を歴史的視点から考える。					瀧音	
4	地域史と生活・信仰(1)	[講義] 日本に仏教が伝わり、寺が建立されるにいたった経緯やその背景、実際に建てられた古代寺院の実態などを、文献などから探っていくことで、次回の演習に備える。					瀧音	
5	地域史と生活・信仰(2)	[演習] 下野薬師寺の遺跡を訪れ、地域における古代寺院の成立・展開の歴史を中心に、地域生活や社会組織・制度のなかの信仰や人生観について考える。					瀧音	
6	「装い」の歴史	[講義] 古代の耳飾りや指輪など、さまざまなアクセサリーをとり扱いながら、古代の人々がどのような「装い」の習俗をもっていたのかについて、考えていく。					瀧音	
7	人体から探る人の歴史	[講義] 人骨にみられる殺傷痕や、病的変化の痕跡から、日本人の生活形態や社会の変容をどのように見ていくことができるのかについて、探っていく。					瀧音	
8	試験(レポート)						瀧音	
教科書	なし			参考書等	適宜、授業において指示する。			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度・受講姿勢を中心とした平常点(20%)			
備考	人間(患者)理解の糸口の1つとして、社会や価値観の変化、個々人の人生史を理解する視点の涵養に重きをおく。また、[演習]とある回は校外学習を設定し、フィールドから学ぶ経験を重視するので、自転車の往復を厭わない積極的な学生の受講を期待する。この科目では、講義終わりに次の講義のキーワードを提示するので、それについて各自が事前に調べ、予習しておくこと、校外学習の経験と知識の結びつきを意識しつつ復習に臨むことが大切である。							

授業科目	心理学	科目責任者	大塚 公一郎	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件なし	
				時間数	30	受講semester	2年次前学期		
学習目的と到達目標	目的	心とからだのつながり、ストレスの概念、心身の発達などを理解し、また、知覚、学習と記憶、知能、言語、人格などの心理学の基礎的な知識を習得する。							
	到達目標	1. 心とからだのつながり、ストレス、心身の発達などを理解する。 2. 知覚、記憶、学習などの基本テーマを理解する。 3. 心理面接法・カウンセリングなどの技術を修得する。 4. 看護の場面で起こる人間関係の問題に対処できるようにする。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員		
1	心理学概論	[講義] 20世紀以降の現代心理学の潮流を概括する。心理学の様々な方法や実験心理学と臨床心理学の違いを理解する。					大塚		
2～4	心理学の基礎知識Ⅰ	[講義] 学習、記憶、知能についての基礎を学ぶ。					大塚		
5	心理学の基礎知識Ⅱ	[講義] 知覚についての基礎を学ぶ。ゲシュタルト心理学入門					大塚		
6	心理学の基礎知識Ⅲ	[講義] 欲求と感情についての基礎を学ぶ。					大塚		
7	心理学の基礎知識Ⅳ	[講義] 衝動と感情のコントロール、防衛機制について学ぶ					大塚		
8	心理学の基礎知識Ⅴ	[講義] 言語についての基礎を学ぶ。言語と思考、象徴機能の関係					大塚		
9	心理学の基礎知識Ⅵ	[講義] 性格についての基礎を学ぶ。類型論と特性論					大塚		
10	心理学の基礎知識Ⅶ	[講義] ストレスの概念、ストレッサーに対する心身の防衛反応について学ぶ。					大塚		
11	心理学の応用知識Ⅰ	[講義] ストレスへの対処能力について学ぶ。					大塚		
12	心理学の応用知識Ⅱ	[講義] 外傷体験、トラウマ反応と心の病気、外傷後ストレス障害について学ぶ。					大塚		
13	心理学の応用知識Ⅲ	[講義] マインドコントロールやカルト問題について学びつつ、現代社会における青年の心理について考える。					大塚		
14	心理学の応用知識Ⅳ	[講義] 患者と医療者の心理について知り、臨床現場での望ましい態度や対応について学ぶ。					大塚		
15	試験						大塚		
教科書	特に指定しない。			参考書等	特に指定しない。 授業時に提示する。				
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. 学習態度 (30%または減点法)				
備考	本科目は、こころの問題を扱う他のすべての科目の基礎となります。授業中に、本学部での学習に役立つ重要な概念や用語を強調してとりあげます。予習は必要ありませんが、授業で理解が不十分な事項については、授業のレジュメや授業中に提示する参考書などを用いて復習して、次の回の授業と定期試験にそなえてください。								

授業科目	芸術と表現	科目責任者	鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	30	受講semester	1・4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	人間の創造性、美意識、その背景となる基層文化について考え、その精神世界を探究する。						
	到達目標	1. 文学、音楽、映画、絵画・彫刻、演劇などを通じて、人間の創造性、美意識、精神世界などを探究し、柔軟な人間性と美的感覚を育む。 2. パフォーマンス（自己表現）の能力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法						担当教員
1	映画表現の特質とその歴史的変遷	[講義] 多種多様な映画表現にアプローチするため、その特質と歴史的変遷について基本事項を確認する。						鳩飼
2	古典的ハリウッド映画の成立とその特徴	[講義] 古典的ハリウッド映画と呼ばれる形式がいかにかに成立したのかを確認し、作品例を通じて表現の特徴を理解する。						鳩飼
3・4	撮影所時代の日本映画の作家論的考察	[講義] 溝口健二と増村保造を例に、撮影所時代の日本映画における表現の「作家」による違いを理解する。						鳩飼
5	現代映画の多様性	[講義] 現代における映画表現の多様さについて、ハリウッド映画と日本映画の作品例を通じて理解する。						鳩飼
6	象徴（シンボル）とは何か	[講義] 象徴を人間の想像力／創造力に基づく「表現」として理解し、その語源・構造・役割などについて理解する。						松平
7	ヨーロッパのキリスト教美術にみられる象徴表現	[講義] キリスト教の基本事項を確認しながら、宗教画や教会建築などといったヨーロッパのキリスト教美術を具体例としてとりあげ、そこでの象徴表現について考える。						松平
8	ヨーロッパの紋章にみられる象徴表現	[講義] ヨーロッパの紋章を具体例としてとりあげて、その社会的・文化的意味・役割を踏まえつつ、そこでの象徴表現について考える。						松平
9	ヨーロッパの装飾・意匠にみられる象徴表現	[講義] ヨーロッパの一般建築などにおける装飾・意匠を具体例としてとりあげて、そこでの象徴表現について考える。						松平
10	象徴表現としてのヨーロッパの怪物	[講義] 近世の博物誌や旅行記、そして現代にも登場するドラゴンやセイレン（人魚）などのヨーロッパの怪物を象徴表現として捉えて、その存在意義や役割について考える。						松平
11	物語批判としての小説	[講義] 小説とはなにか、その問題を小説が近代市民社会に登場した時点にさかのぼって考える。						小西
12	物語批判としての小説	[講義] 小説は決して物語ではない。むしろ物語批判としてある小説をロマン主義からリアリズムへの流れの中でみる。						小西
13	虚構としてのリアリズム	[講義] 近代文学の主要な流れを形成したリアリズムが固有の約束事をもつひとつの形式としてあったことを学習する。						小西
14	小説の多声性	[講義] 近代文学の極北ともみなされるドストエフスキーの多声性、対話性をみながら、リアリズムの可能性を考える。						小西
15	小説の実験	[講義] 「長篇小説の危機」（ベンヤミン）を横目になされたモダニズム文学の実験を、ナボコフを中心に学習する。						小西
教科書	講義の都度プリント等を配布する。			参考書等	特になし			
履修条件	なし			評価方法	課題レポート（90%） 学習態度（10%）			
備考	「芸術と表現」は、多様なテーマによるオムニバス形式の授業のなかで、「芸術」の素晴らしさと面白さを身近に感じられるようにし、自分の表現技術を磨くための科目となる。授業終了後も、感性や表現技術を磨いて看護に活かされるようにすること。予習・復習は特に必要はない。							

授業科目	教育学	責任者	池田 幸也	単位数	2	必修選択別	選択	履修条件 なし
		目次 調整者 内	倉科 智行	時間数	30	受講 Semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	人間の成長・発達や社会の発展に果たす教育の意義や役割について理解し、また、生涯を通じての教育や学習の必要性を理解し、生涯学習するための基礎的習慣を養う。						
	到達目標	1. 人間にとっての教育の意味、またその社会的機能について理解する。 2. 現代社会のなかに多様な教育の可能性を理解し、新たな教育的関係を探求する。 3. 生涯発達（成長）の視点から、生活のなかの生涯教育／学習の機能について考える。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	教育とは	[講義] 教育の営みを、思想史を踏まえて整理する。					池田	
2	教育学の形成と体系	[講義] 近代科学としての教育学の多角性を理解する。					池田	
3	現代の教育	[講義] 現代における教育の意義と目的について検討する。					池田	
4	教育の社会的機能	[講義] 教育の社会的機能と学習の意義を理解する。					池田	
5	学校教育の歴史	[講義] 近代学校教育制度の変遷を学ぶ。					池田	
6	日本の学校教育制度	[講義] 近代日本の学校教育制度の変遷を学ぶ。					池田	
7	学校教育の課題と現代	[講義] 現代の学校教育の現状と課題を検討する。					池田	
8	人間の発達と家庭教育	[講義] 人間の発達と家庭教育のあり方について学ぶ。					池田	
9	ライフコースと生涯学習	[講義] ライフコースにおける生涯学習の意義を学ぶ。 (自分の教育ライフコースを考える)					池田	
10	日本の社会教育	[講義] 日本における社会教育の役割を学ぶ。					池田	
11	リカレント教育について	[講義] 職業人におけるリカレント教育の重要性を学ぶ。					池田	
12	キャリア形成と教育	[講義] 発達の視点からとキャリア開発の意義を学習する。					池田	
13	看護師のキャリアと教育	[講義] 看護師のキャリア形成と専門職教育について学ぶ。					池田	
14	教育の未来を考える	[講義] 現代の教育課題を踏まえて未来の教育を構想する。					池田	
15	試験 ・ 評価	[評価] 筆記試験およびライフコースレポート					池田	
教科書	特に使用しない。 講義ごとに資料を配布する。			参考書等	・参考書等については講義で必要に応じて紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1 筆記試験 (80%) 2 毎時間の各自のふりかえりコメント (10%) * 2に関心・意欲・態度を含め、総合的に評価する。 3 教育ライフコースレポート (10%)			
備考	教育学は、生涯発達の視点から子どもから老年期までの学びに加え、看護師をはじめとした専門職のキャリア形成、ケアとしての人間関係づくり、各自の人生設計の視座となるので、シラバスに基づき予習し、配布するプリントを活用して復習を重ねることが重要である。							

授業科目	人間関係論	科目責任者	大塚 公一郎	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	15	受講セメスター	1・2年次 前学期	
学習目的と到達目標	目的	集団力学の理論を習得し、相互に影響を与えながら人が他者と形成する人間関係を理解し、円滑な人間関係をつくりあげる能力を養う。						
	到達目標	1. 人間の心理、文化、社会的発達段階における自己・他者との出会いを知る。 2. 心理療法の諸理論を理解し、援助者を取り巻く人間関係への活用を考察する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	人間関係論の意義 コミュニケーション論入門	[講義] 人間を関係的存在として捉える視点の重要性を理解する。コミュニケーションの基本概念や構造、ダブルバインド理論の初歩について学習し、理解する。					大塚	
2	人間関係づくり体験学習Ⅰ 自己認知・自己理解の体験	[講義・演習] 人間関係の相互作用であるジョハリの窓を理解し、エンカウンター手法の6段階に沿って、集団機能を活用した人間関係づくりを体験学習で学ぶ。まず、自己覚知・自己理解・自己受容のプロセスを体験学習し、理解する。					高村	
3	人間関係づくり体験学習Ⅱ 感情表現・自己開示の体験	[講義・演習] 感情表現・自己開示のプロセスを定見学習し、理解する。					渡辺	
4	人間関係づくり体験学習Ⅲ 自己主張の体験	[講義・演習] 自己主張のプロセスを体験学習し、理解する。					渡辺	
5・6	人間関係づくり体験学習Ⅳ 他者理解・他者受容の体験	[講義・演習] 他者理解・他者受容を体験学習し、理解する。					渡辺	
7	社会的相互作用論と社会的役割とアイデンティティ	[講義] 社会心理学モデルである社会的相互作用や役割論、アイデンティティ論の基礎を学び、人間の自己や他者、社会・文化との関係について、おおまかに理解する。					大塚	
8	評価						大塚	
教科書	特になし			参考書等	「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版」 石川ひろの他著、医学書院、2018年 開講時必要に応じて紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート (70%) 2. 学習態度 (30%または減点法)			
備考	人間関係を扱う本科目は、対人援助職をめざす皆さんが看護学部で学ぶすべての科目と関連をもちます。先入観をもたないように、予習は必要ありませんが、あなたらしく自然体で、自分の心に素直に本授業を受けること。授業で理解が不十分な事項については、授業のレジメや参考書などを用いて復習して、次の回の授業とレポート作成にそなえること。							



授業科目	身体活動論	責任者	板井 美浩	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調整者	鹿野 浩子	時間数	30	受講semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	身体活動による代謝の変化を理解し、生涯健康生活における実践能力を養う。						
	到達目標	1. 健康の保持増進のための運動実践を行い、その能力を養う。 2. 心身ともにゆたかな健康生活を送れるようなライフスタイルを確立する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	オリエンテーション	[講義] 授業内容および進行方法を説明する。 出席カードを作成する。					板井・野村	
3・4	行動体力を測定しよう	[演習] 形態・筋力・瞬発力・持久力などの測定を行い、現在の行動体力を知る。					板井・野村	
5・6	薬師寺史跡ウォーキング	[演習] 様々な運動・スポーツを実践し、身体の変化をレポートに書き残す。スポーツを楽しみながら「身体」を感じ取る力を身につける。					板井・野村	
7・8	アルティメット						板井・野村	
9・10	ダンスの動きを用いた運動実践とバドミントン						板井・野村	
11・12	ダンスの動きを用いた運動実践とソフトバレー						板井・野村	
13・14	ユニバーサルホッケー	[演習] 体力・健康のあり方や「命ある私のからだ」について改めて考えてみる。					板井・野村	
15	まとめと評価						板井	
教科書	必要な資料はプリントを配布する。			参考書等	特に指定しない。			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業態度評価点(70%) 2. レポート点(30%)			
備考	定員は設けないが、希望者が多い場合は、実施できる実技種目が限られることを承知の上で履修すること。 予習・復習はとくに必要ないが、毎回の講義・演習に積極的に、そして集中して学んでいくこと。 養護教諭2種免許状の申告に必要な科目である。							

授業科目	保健体育	科 責任者	板井 美浩	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		学 調整者 内	鹿野 浩子	時間数	15	受講セメスター	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	生涯を通して健康で有意義な人生を送ることに不可欠なよりよいライフスタイル形成についての理論を学ぶ。						
	到達 目標	1. 健康の概念をQOLの視点から理解する。 2. 健康を保持増進するための方策を、食事・栄養、運動・スポーツ、生活習慣などと関連づけて理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] 授業内容および進行方法を説明する。 出席カードを作成する。					板井	
2	行動体力の測定	[演習] 自身の体について調べた数値と感覚をつなぐため、形態・筋力・瞬発力・持久力などの測定を行い、現在の行動体力を知る。					板井	
3	バドミントン	[講義と演習]					板井	
4	バドミントン	「体を育む」体育と「体で育む」体育理論と実践					板井	
5	子どもテニス	体育とは、体力を向上させたり技術を身につけたりする					板井	
6	子どもテニス	「体を育む」ことだけではない。身体運動を通じて互いの信頼関係を築いたり、場を共有し命の交感を育んだりする					板井	
7	ユニバーサルホッケー	「体で育む」体育がこれからは必要である。 そのことへの理解を運動を通じて深める。					板井	
8	まとめと評価	[講義] 体力・健康のあり方や「命ある私のからだ」について改めて考えてみる。					板井	
教科書	必要な資料はプリントを配布する。			参考書等	特に指定しない。			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業態度評価点(70%) 2. レポート点(30%)			
備考	定員は設けませんが、希望者が多い場合は実施できる種目に限りがあることを承知の上で履修すること。 予習・復習はとくに必要ないが、毎回の講義、演習に集中して学んでいくこと。 養護教諭2種免許状の申告に必要な科目である。							

授業科目	基礎英語		科目責任者	鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	30	受講semester	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。							
	到達目標	英語で英語圏の文化を理解し、英語によるコミュニケーションの基礎能力を養う。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	友達との交流	[講義・演習] 励ましを述べる						鹿野	
2	文化的な差異	[講義・演習] 同意の求め方と同意の表す						鹿野	
3	教育	[講義・演習] 可能と不可能について議論する						鹿野	
4	スポーツ	[講義・演習] 相手の意見を伺い、自分の意見を表明する						鹿野	
5	仕事	[講義・演習] 肯定する						鹿野	
6	食物	[講義・演習] なぜそうなるのか聞き、自分の意見を述べる						鹿野	
7	健康	[講義・演習] 感謝を表す						鹿野	
8	洋服	[講義・演習] (自他を) 認め・否定する						鹿野	
9	旅行	[講義・演習] お礼を述べる						鹿野	
10	音楽	[講義・演習] 直接的・間接的に依頼する						鹿野	
11	映画	[講義・演習] 人のコメントを他者に表わす						鹿野	
12	買い物	[講義・演習] 選択を示し、各々について理由を添える						鹿野	
13	インターネット	[講義・演習] 心配事に触れる						鹿野	
14	天気	[講義・演習] 他者の意見に対し上手くコメントする						鹿野	
15	試験							鹿野	
教科書	「English Listening and Speaking Patterns 3」 Andrew E. Bennet 著、南雲堂、2018年			参考書等	講義時に適宜提示する				
履修条件	なし			評価方法	定期試験 (70%) 課題レポート (30%)				
備考	本授業では、日常生活に欠かすことのない基本的な言い回しを習得することを目的とする。日本語と英語の言語と文化の違いに留意し、異文化理解の意味をもつ意義を示しながら授業を進めていく。教科書付属の CD は授業前までには必ず聞き、教科書、配布資料を用いて復習すること。								

授業科目	医療英語 コミュニケーション		科目責任者 鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
	時間数	30		受講semester	1年次 後学期			
学習目的と 到達目標	目的	医療環境で使われる英語を理解し、コミュニケーションをとる基礎力を養う。						
	到達目標	医学英語の基礎を身につけ、医療従事者としての英語コミュニケーション能力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	Registration	[講義・演習] 問診票の書き方と初診の手続きの方法					鹿野	
2	Hospital Department	[講義・演習] 診療科・院内説明					鹿野	
3	Vital Signs	[講義・演習] バイタルサイン測定と基本問診					鹿野	
4	Internal Medicine (1)	[講義・演習] 耳鼻咽喉科での問診と患者の説明表現					鹿野	
5	Internal Medicine (2)	[講義・演習] 循環器系での問診と患者の説明表現					鹿野	
6	Internal Medicine (3)	[講義・演習] 消化器系での問診と患者の説明表現					鹿野	
7	Urology	[講義・演習] 泌尿器科での問診と患者の説明表現					鹿野	
8	Surgery/Orthopedics	[講義・演習] 外科・整形外科での問診と患者の説明表現					鹿野	
9	Gynecology	[講義・演習] 産婦人科での問診と患者の説明表現					鹿野	
10	Pediatrics	[講義・演習] 小児科での問診と患者の説明表現					鹿野	
11	Giving Tests	[講義・演習] 検査時に必要な表現方法					鹿野	
12	Before and After Operation	[講義・演習] 手術前後の説明と指示					鹿野	
13	Medications	[講義・演習] 薬の説明と指示					鹿野	
14	Review for the Exam	[講義・演習] まとめ					鹿野	
15	試験						鹿野	
教科書	「看護英語の練習帳ーインプットからアウトプットへ」 井上真紀著、萌文書林、2018年			参考書等	講義時に適宜提示する			
履修条件	なし			評価方法	定期試験(70%) 小テスト(30%)			
備考	授業前までに教科書に目を通しておき、分からない単語は必ず辞書で確認すること。日ごろから教科書付属のCDを聞くようにし、復習はテキスト英文を再現できるようにする。							

授業科目	医療英語	科目責任者	鹿野 浩子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	30	受講semester	2・4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	英語で書かれた医療系文献を理解する力を養う。						
	到達目標	医学英語の知識を身に付け、英語で書かれた論文や医学関係書籍から情報を収集し、発表できる力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	プレゼンテーションの仕方	[講義・演習] Closing the Health Gap in a Generation を読み、内容を発表する					鹿野	
2	医療倫理	[講義・演習] Between the Physician's Obligations to Patients and to Society を読み、内容を発表する					鹿野	
3	災害時緊急医療	[講義・演習] Management of an Emergency を読み、内容を発表する					鹿野	
4	睡眠時の問題	[講義・演習] Sleep Apnea Syndrome を読み、内容を発表する					鹿野	
5	薬の乱用	[講義・演習] FDA Drug Safety Newsletter を読み、内容を発表する					鹿野	
6	WHO の取り組み	[講義・演習] For Transparency of Clinical Trials を読み、内容を発表する					鹿野	
7	生活習慣病の予防・治療	[講義・演習] Metabolic Syndrome を読み、内容を発表する					鹿野	
8	免疫学	[講義・演習] Frontiers in Immunology を読み、内容を発表する					鹿野	
9	死の定義	[講義・演習] Death, Organ Transplantation and Medical Practice を読み、内容を発表する					鹿野	
10	医療過誤	[講義・演習] You Can Say Sorry を読み、内容を発表する					鹿野	
11	遺伝治療	[講義・演習] Gene Therapy Reverses Color Blindness を読み、内容を発表する					鹿野	
12	遺伝検査と守秘義務	[講義・演習] Confidentiality and Modern Genetics を読み、内容を発表する					鹿野	
13	再生医療	[講義・演習] Hope for Regenerative Medicine を読み、内容を発表する					鹿野	
14	生前意思表示	[講義・演習] Living Will を読み、内容を発表する					鹿野	
15	試験						鹿野	
教科書	「医療系学生のための総合英語」野ロジュディー・幸重美津子・内藤永・深山晶子・棕平敦・村尾純子著、株式会社三修社、2013年			参考書等	講義時に適宜提示する			
履修条件	なし			評価方法	定期試験(70%) 発表(30%)			
備考	本授業では英語で書かれた医療文献を理解し、発表できる力を養うことを目的とする。予習として予めテキストを読み込み、内容をまとめておくこと。また復習として、語彙・文法を整理すること。本科目は看護教諭二種免許状を申請するための「外国語コミュニケーション」として規定されている科目となる。							

授業科目	スペイン語	科 責任者	今野 弘子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		目 調整者 学 内	大塚 公一郎	時間数	30	受講semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。						
	到達目標	スペイン語でスペイン語圏の文化を理解し、スペイン語によるコミュニケーションの基礎能力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	スペイン語圏、アルファベット、発音、あいさつ表現	[講義]	スペイン語のあいさつ、自己紹介を学ぶ				今野	
2	基数詞1～30、名詞の性数、国名と国籍、冠詞	[講義]	名詞の性・数を学ぶ				今野	
3	基数詞の使い方、主格人称代名詞	[講義]	国籍の表現を学ぶ				今野	
4	動詞 ser、否定文・疑問文	[講義]	出身・職業の表現を学ぶ				今野	
5	時刻、基数詞31～99	[講義]	時間の表現を学ぶ、1・2課単元テスト				今野	
6	指示詞、所有形容詞前置形	[講義]	指示詞・所有詞を使った表現を学ぶ				今野	
7	序数詞、日付と曜日	[講義]	日付の表現を学ぶ				今野	
8	形容詞	[講義]	形容詞を学ぶ、3・4課単元テスト				今野	
9	動詞 ser と形容詞、接続詞 y と o	[講義]	形容詞を使った表現を学ぶ				今野	
10	動詞 estar と hay、hay と estar ser/estar と形容詞	[講義]	人や物の有無、所在の表現を学ぶ				今野	
11	直接法現在規則活用動詞	[講義]	規則動詞の活用と用法を学ぶ、5・6課単元テスト				今野	
12	疑問詞	[講義]	様々な疑問詞を使った表現を学ぶ				今野	
13	直接法現在不規則活用動詞	[講義]	不規則動詞の活用と用法を学ぶ				今野	
14	目的格人称代名詞	[講義]	目的語の用法を学ぶ				今野	
15	期末試験						今野	
教科書	「Encuentro con el mundo del español 1」(スペイン語の世界へようこそ 1 改訂版) 村上陽子、Margarita Nakagawa、Analía Vitale、平田和重、禪野美帆著、朝日出版社、2017年		参考書等	「ポケットプログレッシブ西和・和西辞典」高垣敏博著、小学館、2003年 電子辞書に西和単語集があれば、使用可				
履修条件	なし		評価方法	1. 期末試験 (50%) 2. 単元テスト (30%) 3. 学習態度 (20%)				
備考	名詞の性の判断のため、辞書の購入は必須。外国語の習得には反復が重要であるので、復習を欠かさないこと。また、各課末にある練習問題は講義中に解く時間を設けないので、宿題または予習とする。養護教諭2種免許状を申請するための「外国語コミュニケーション」として規定されている科目である。							

授業科目	中国語	科 目 責 任 者	松金 公正	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		学 調 整 者 内	鹿野 浩子	時間数	30	受講 Semester	1・4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	異文化を理解し、異なる言語を話す人とコミュニケーションをとる基礎能力を養う。						
	到達目標	中国語で中国語圏の文化を理解し、中国語によるコミュニケーションの基礎能力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	概 説	[講義] ガイダンス、中国語とは何か?					松金	
2	発音の基礎 (1)	[講義] 4つの声調、単母音と子音 (有気音と無気音) など。					松金	
3	発音の基礎 (2)	[講義] 複合母音、鼻母音、そり舌音、声調変化など。					松金	
4	挨拶	[講義] 日常の挨拶表現など。					松金	
5	自己紹介、動詞 (1)	[講義] 自己紹介、名前の中国語読み、“是”の使いかたなど。					松金	
6	動詞 (2)	[講義] 動詞と目的語の語順、“有”の使いかた、疑問詞など。					松金	
7	形容詞	[講義] 形容詞述語文、時を表す名詞の位置など。					松金	
8	助動詞 (1)	[講義] “想”の使い方、場所を表す代名詞など。					松金	
9	動 詞 (3)	[講義] “在”、“給”の使い方など。					松金	
10	助動詞 (2)	[講義] “会”の使いかた、指示代名詞など。					松金	
11	助動詞 (3)・補語 (1)	[講義] “要”の使いかた、比較、結果補語など。					松金	
12	補 語 (2)	[講義] 時量補語、様態補語、“要”の使いかたなど。					松金	
13	補 語 (3)	[講義] 可能補語、“着”、助動詞“能”の使いかたなど。					松金	
14	復習と課題発見	[講義] これまでのまとめ。					松金	
15	試 験						松金	
教科書	「オリンピックへようこそ (会話編)」徐送迎著、朝日出版社、2018年		参考書等	特になし。				
履修条件	なし。		評価方法	1. 定期試験 (60%) 2. 授業中の小テスト (「聴写」) (30%) 3. 授業中の回答への積極性 (10%)				
備考	入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっているため、付属 CD などを利用して必ず予習・復習する。授業の最初に確認のための小テストを行う。 養護教諭2種免許状を申請するための「外国語コミュニケーション」として規定されている科目である。							

# 基礎科学分野

生活・社会の成り立ち



授業科目	社会学	科 任 者 目 録	李 泰俊	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調 整 者 内	関山 友子	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	個人と社会との関係性を理解し、生活者としての個人を理解する。						
	到達 目標	友人、家族、ならびに地域・産業・メディア・医療などを具体的に取り上げ、自分と自分を取り巻く社会との関係をとらえ直し、生活者としての視野を広げる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	「個人」と「社会」	[講義] 「社会学」とは何か。社会はどのように形成され、どのように発展してきたか、日常の行為の中で取り結ばれる自分と他者、社会との関係性から考える。					李	
2	「規範」と「制度」の社会学	[講義] 行為に媒介する「規範」や「制度」について、その役割を捉えつつ、社会集団、地域社会・国民社会、ネットワーク、ならびに社会階層等を例に考える。					李	
3	「家族」の社会学	[講義] 「家族」の概念の変容を確認しつつ、現代社会における意味を、少子化やジェンダー論等を踏まえながら考える。					李	
4	「地域」の社会学	[講義] 現代の「地域社会」の諸課題を、「都市化」や「地域間格差」、「ネットワーク」を踏まえつつ考える。					李	
5	「移民」と「国民国家」の社会学	[講義] グローバル化と国民国家の関係性を、日本における外国人をめぐる状況を例に挙げ、社会文化的側面、法的側面、ならびに産業・労働から考える。					李	
6	「メディア」の社会学	[講義] メディアの発展過程を捉えつつ、「情報化」社会の問題点と今後のありかたを考える。					李	
7	「医療」の社会学	[講義] 医療従事者と患者の関係性、病院という場の意味、あらゆる生活局面を覆う「医療化」などについて考える。					李	
8	試験						李	
教科書	毎回講義資料を配布する。			参考書等	授業中に適宜参考図書・文献を提示する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 期末試験 (70%) 2. 授業中の課題 (20%) 3. 学習態度 (10%)			
備考	社会学は、社会全体の変動のみに焦点を当てるのではなく、人間の行動がどのように社会を変えているのかなど、社会と人間の相互作用を理解するものである。社会学の理解をより深めるためには、授業において取り上げられたテーマと実生活を照らし合わせその機能と役割をもう一度確かめることが必要である。配布資料や参考文献をよく読み予習を行うこと。参考文献については、各講義において紹介する。							

授業科目	家族社会学	責任者	林 葉子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	関山 友子	時間数	15	受講 Semester	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	家族とは何かを理解し、現在やこれからの家族の意識の変化、ならびに、家族のあり方が影響を及ぼすと考えられる育児や人格の形成について考察する。						
	到達目標	1. 家族とは何かを理解し、これからの家族の意識の変化を考察する。 2. 育児や人格の形成について考察する。 3. 家族力動理論を学習する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	家族とは何か	[講義] 「家族」は誰にとっても身近なもので、「当たり前」の存在と思われがちである。個人にとって「家族」とは何かを考える。					林	
2	生殖補助医療と家族	[講義] ストレス過多の社会、晩産化こともない、子どもに恵まれないう夫婦も増加、一方、生殖補助医療の発達により子どもを持つ努力をする夫婦も増加している。そのことは、家族とは何かという問題にも大きく影響している。新しい家族とは何かを考える。					林	
3	家族の始まり (結婚)	[講義] 結婚の意味、歴史、現代的様相を学び、家族とは何かを考える。					林	
4	夫婦関係	[講義] 夫婦関係を社会学視点からとらえる。夫婦関係の歴史、現代的様相を学ぶ。					林	
5	親子関係	[講義] 家族の関係性における親子関係 (子どもの社会化を含め) を、実態の変化を、役割という視点から考える。					林	
6	少子化、青少年の問題	[講義] 少子高齢化の問題を取り上げ、その現状と対策等を学ぶ。近代家族から続く、青少年の問題を取りあげ、家族の役割を考える。					林	
7	高齢者と家族	[講義] 孤立死、認知症高齢者等、家族の高齢期の理解を深め、高齢患者の問題に気づく基礎を学ぶ					林	
8	試験	学習方法：予習として教科書を読んでもらうこと。毎時間、配布された教科書のレジュメで、基本的な内容を学び、リアクションペーパーの課題に対して自分自身の意見を述べる。					林	
教科書	「家族社会学 基礎と応用 第3版」 木下謙治監修、九州大学出版、2016年			参考書等	「現代家族の社会学」石川実編、有斐閣ブックス、1997年 「教養の家族社会学」西村洋子、学文社、1992年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験 (教科書持ち込み可) (60%) 2. リアクションペーパー (40%)			
備考	家族とは何かを理解し、現代家族の意識の変化、並びに、家族の各段階における課題を把握し、看護職として患者とその家族に対する理解を深めていく科目である。 予習：授業の進み方が速いので、授業前に教科書を読むこと。 復習：レジュメの内容を教科書で確認しておくこと。自分自身の家族について内省し、自分以外の家族にも関心の目を向けてみる。							

授業科目	法学 (日本国憲法を含む)	責任者	畑中 祥子	単位数	2	必修選択別	選択	履修条件 なし
		目学調整者内	鹿野 浩子	時間数	30	受講 Semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	主として市民と国家が関わる公法の領域を中心として、「公正」と「正義」という観点から、法的な思考方法と基本概念を理解しながら、社会生活における法的な問題を考える。						
	到達目標	1. 日本国憲法を中心として、「法」に関する基本的な概念と体系を理解する。 2. 社会における「法」の役割と市民が「法」を「解釈すること」の意味を考える。 3. 医療の領域において「法」がどのように機能して、運用されているのかを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	現代社会と法	[講義] ガイダンスとして、この科目の目的・目標と今後の予定を確認しながら、法律学の勉強の仕方について学ぶ。					畑中	
2	憲法の基礎1	[講義] 日本国憲法の基本原理と基本的人権の総論部分を学ぶ。					畑中	
3	憲法の基礎2	[講義] 基本的人権の種類を学ぶ。					畑中	
4	憲法の基礎3	[講義] 基本的人権の「享有主体性」と「公共の福祉」による制約を学ぶ。					畑中	
5	憲法の基礎4	[講義] 日本国憲法が定める統治機構を整理しながら、安定的な政治運営のための仕組みを学ぶ。					畑中	
6	民法の基礎1	[講義] 民法の全体構造を整理しながら、「契約」理論を学ぶ。					畑中	
7	民法の基礎2	[講義] 「不法行為」と「損害賠償」について学ぶ。(その①)					畑中	
8	民法の基礎3	[講義] 「不法行為」と「損害賠償」について学ぶ。(その②)					畑中	
9	刑法の基礎1	[講義] 刑法の全体像を整理しながら、「罪刑法定主義」などの基本概念や考え方を学ぶ。					畑中	
10	刑法の基礎2	[講義] 犯罪の成立要件を学ぶ。					畑中	
11	家族と法1	[講義] 婚姻・出生・親子関係に関する法制度を学ぶ。					畑中	
12	家族と法2	[講義] 死亡と相続に関する法制度を学ぶ。					畑中	
13	職場と法1	[講義] 個別的労働関係法の全体像を学ぶ。					畑中	
14	職場と法2	[講義] 集団的労働関係法の全体像を学ぶ。					畑中	
15	評価						畑中	
教科書	指定しない。			参考書	「憲法1 (人権) 第6版」 渋谷秀樹、有斐閣、2016年 「憲法2 (統治) 第6版」 渋谷秀樹、有斐閣、2016年 「看護のための法学 [第4版]」 野崎和義・柳井圭子、法律文化社、2017年など、講義時に適宜提示する。			
履修条件	なし			評価方法	期末レポート (100%)			
備考	テーマごとにレジュメ・資料を配布する。予習として、資料および参考書等を必ず読むこと。復習は講義内容を自分の言葉でまとめる。養護教諭2種免許状の申告に必要な科目である。							

授業科目	政治と国際関係論	責任者	正田 浩由	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		目次 調整者 内	倉科 智行	時間数	15	受講semester	1・2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	個人の生活と政治の関係、マスメディアと政治、国会と内閣、官僚と政治、政治と世界との関係について考察するとともに、異文化についての理解を深め、国際協力の必要性和協力の方法を理解する。						
	到達目標	1. 政治が何であるのか、それが自分の生活にどう関わってくるのか、そのなかで自分はどう暮らしていけばいいのかについて、主体的に考えられるような能力を養う。 2. 異文化についての理解を深め、国際協力の必要性和その方法を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	政治学・国際関係とはどのような学問か	[講義] 政治学・国際関係がどのような学問かについて考察する。					正田	
2	民主主義と議会制度	[講義] 民主主義と議会制度について考察する。					正田	
3	集団安全保障体制	[講義] 集団安全保障体制 (国際連盟・国際連合) について考察する。					正田	
4	資本主義と民主主義	[講義] 資本主義と民主主義の関係について考察する。					正田	
5	日本の立ち位置	[講義] 戦後日本のあり方について考察する。					正田	
6	ヨーロッパ連合 (EU)	[講義] ヨーロッパの統合と国家のあり方について考察する。					正田	
7	日韓関係と、今後の日本政治・外交について	[講義] 独裁政権下の韓国の民主化闘争と日本との関係、さらにはこれからの日本政治・外交について考察する。					正田	
8	試験						正田	
教科書	特に指定しない。			参考書等	授業中必要に応じて紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. 受講態度 (30%)			
備考	政治は我々の生活そのものであり、政治家や官僚が独占すべきものではない。だから政治を特別なものと考えず、皆さんが普段持っている感覚を大事に受講してほしい。その上で、予習はシラバス記載のキーワードを自分で調べ、さらには見出しだけでも良いので新聞に目を通すようにしてほしい。講義をただ聞くだけの受け身の態度ではなく、自分の頭で自身の問題として主体的にしっかりと考えることを求める。復習は講義内容を踏まえ、改めて調べること。							

授業科目	経済学	科 目	吉川 薫	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		責任者 調整者 内	鹿野 浩子	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	経済学の基礎的な理論を理解し、市場経済下における消費者や生産者の行動を考察するとともに、マクロ経済学の基本である有効需要の原理を理解する。						
	到達目標	1. 市場経済下における消費者および生産者の行動を理解する。 2. 国民経済全体を記述する国民所得決定の理論を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	希少性と資源配分	[講義] 経済学とは何か、および経済学で最も重要な側面である資源配分問題を考えるとき必要な用語や概念を学ぶ。					吉川	
2	需要と供給	[講義] 消費財を例にとり、需要と供給を決める要因について学ぶ。					吉川	
3	価格の決定とその変化	[講義] 需要曲線、供給曲線を使って、市場における価格の決定について学ぶ。					吉川	
4	資源配分と所得分配の決定	[講義] 市場経済における資源配分と所得分配の決定、単純な経済循環について学ぶ。					吉川	
5	政府の役割	[講義] 市場経済における政府の役割（法による支配、資源配分、所得分配）について学ぶ。					吉川	
6	国内総生産の決定	[講義] マクロ経済学の諸概念、国内総生産と国内総支出の決定（有効需要の原理）について学ぶ。					吉川	
7	経済の変動と安定化政策	[講義] 国内総生産の変動、マクロ経済の安定化政策について学ぶ。					吉川	
8	試験						吉川	
教科書	「経済学への招待」岩田規久男、新世社、2007年			参考書等	・「入門経済学」第4版 伊藤元重、日本評論社、2015年 ・「経済学」塩沢修平、新世社、2003年 など			
履修条件	なし			評価方法	1 定期試験（90%） 2 学習態度（10%）			
備考	授業の前後に予習（教科書を読み、重要な点を書き出す）、復習（練習問題を解く）をすること。							

授業科目	文化人類学	責 任 者	山越 英嗣	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
		調 整 者 内	大塚 公一郎	時間数	15	受講 Semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	家族と親族、地域社会・共同体・民族などの概念から、わが国の土着の文化を含めた多様な文化への理解を深め、文化の比較を行い、文化人類学を理解する。						
	到達目標	文化がもつ様々な働きや、思考・行動との関係性を具体的に理解し、患者の多様な受療行動の文化的・社会的背景を見通す視点を獲得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	文化人類学の歴史 (1)	[講義] 社会進化論から文化相対主義までの軌跡を学び、文化人類学的な思考の仕方がどのようなものかを理解する。					山越	
2	文化人類学の歴史 (2)	[講義] 現代社会のキーワードとなっているグローバリゼーションや多文化社会がどのようなことかを学ぶ。					山越	
3	死と文化	[講義] 本当に死は生の終わりなのだろうか。死に対する多様な社会的意味づけを学ぶ。					山越	
4	現代社会における宗教	[講義] 日本の民間信仰に注目し、宗教が人々のライフサイクルをどのように説明し、意味づけているのかを学ぶ。					山越	
5	食と文化 (1)	[講義] 人はどのようにして「食べていいもの」と「食べてはいけないもの」を区別するのかをクジラ・イルカ漁を事例に考える。					山越	
6	食と文化 (2)	[講義] 人はどのようにして「食べていいもの」と「食べてはいけないもの」を区別するのかをクジラ・イルカ漁を事例に考える。					山越	
7	病と健康	[講義] 病気と健康の境界はどこに存在するのかを文化人類学的な視点から考える。					山越	
8	評価						山越	
教科書	なし。教室において毎時プリントを配布する。			参考書等	・「文化人類学 (系統看護学講座 基礎分野)」 波平恵美子編、医学書院、2011年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポートおよびリアクションペーパー (70%) 2. 授業参加態度 (30%)			
備考	本講義は、患者の日常生活や価値観、保健師等が関わる地域社会、国際的な医療活動、質的調査・研究の方法などに 関心がある学生を対象に構成している。また、科目の性格上、インタラクティブな授業のなかで自ら考えることが重要 なので、積極的な授業参加を評価する。事前学習として新聞などでの情報収集を、事後学習として授業中に指示し た図書や配布資料の精読を課す。							

授業科目	ジェンダー論	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	15	受講semester	1・4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	ジェンダーの概念を理解すると共に、セクシュアリティを有する人間生活におけるさまざまな事象をジェンダーの視点から見直すことを学ぶ。さらには、ジェンダーと医療・看護との関係について考察する。						
	到達目標	1. ジェンダーの概念を理解し、セクシュアリティを有する人間生活における様々な事象をジェンダーの視点から考察する。 2. セクシュアリティとジェンダーの関係性を理解する。 3. ジェンダーと医療・看護との関係について考察する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1・2	ジェンダーの歴史と基礎的概念	[講義] 女性学・ジェンダーの歴史、ジェンダーについての基礎的概念について学習する。					白井 (非常勤)	
3・4	ジェンダーの視点からみた日本の社会	[講義] ジェンダーの視点から、日本の社会を見直し、考える。					白井 (非常勤)	
5	セクシュアリティとジェンダー	[講義] 性別・セックス、セクシュアリティ等の概念とジェンダーとの関係について学習する。					成田	
6・7	ジェンダーと医療・看護	[講義] 医療・看護に潜むジェンダーの問題について考える。					成田	
8	評価						成田	
教科書	適宜資料を提示する。			参考書等				
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート (60%) 2. 毎回の講義についての意見の表明の評価 (40%)			
備考	看護すること、看護職であることは、ジェンダーと密接な関係にある。 特に将来助産師になることを希望する学生には、履修をお勧めする。 受講中は、新聞での報道や IT 情報等に関心を持ち、事前学習すること。また講義で紹介した内容についても同様に情報収集することで復習となる。それらの学習の積み重ね、内容豊富な課題レポートを仕上げる。							

授業科目	情報学	科目責任者	関山 友子	単位数	2	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講semester	1・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	情報とは何かを学び、情報量の概念を理解し、メディアリテラシー能力を養う。						
	到達目標	1. 情報や情報学を理解し、情報学の医療や看護にとっての必要性を理解する。 2. コンピュータの仕組み、情報処理の仕組みなど、情報学の基礎的な知識を習得する。 3. メディアリテラシー能力を養う。 4. 情報（ネットワーク）モラルを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	情報科学の基礎	[講義] 情報とは何か、情報量、情報の符号化などについて学習する。					関山	
2	看護と情報 / コンピュータの基礎	[講義] 「看護」における情報の役割を整理する。 コンピュータの基本的な機能などについて学習する。					浅田	
3	コンピュータと ネットワーク	[講義] ハードウェアとは何か、ソフトウェアとは何か、 インターネットの仕組みとは、などを学習する。					浅田	
4	院内情報システムと 情報倫理	[講義] 院内における情報システムの役割、 情報を扱う上での倫理や法律などを学習する。					浅田	
5	情報リテラシー（1）	[講義] 情報リテラシーの概要、情報収集の方法などを学習する。					浅田	
6	情報リテラシー（2）	[講義] 情報発信をする際の注意点、 プレゼンテーション時の注意点などを学習する。					浅田	
7	コンピュータの基本的な操 作	[演習] コンピュータの基本的な操作方法を学習する。					関山	
8	ワープロソフト演習	[演習] ワープロソフトを用いて文書を作成する能力を習得する。					関山	
9～12	表計算ソフト演習	[演習] 表計算ソフトを用いて表やグラフを作成する能力を習得する。					関山	
13・14	プレゼンテーションソフト 演習	[演習] プレゼンテーションソフトを用いてスライドを作成する 能力を習得する。					関山	
15	試験						関山	
教科書	なし			参考書等	「系統看護学講座 別巻 看護情報学」中山和弘他、 医学書院、2017年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（70%） 2. レポート（15%） 3. 学習態度（10%）			
備考	情報学は、他のすべての科目と密接な関わりをもつ科目である。演習については、単に課題をこなすのではなく、能力を習得することを目標として取り組む必要がある。予習は特に必要ないが、配布資料や Moodle 等で十分復習をして定期試験に臨むこと。 看護教諭二種免許状の申請に必要な科目である。							



授業科目	統計学	科目責任者	関山 友子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	推測統計学の基本的な概念を理解し、それを医療や看護の場面で応用できる能力を養う。						
	到達目標	1. データのもつ意味、母集団と標本の概念、仮説検定の方法など、統計学の基本を理解する。 2. 調査などで必要とされるデータの整理、統計的处理、処理結果の解釈などの実践的な能力を養う。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並ならびに方法					担当教員	
1	尺度と度数分布	[講義] 統計学の必要性、質的データと量的データの違い、尺度、度数分布表や度数分布図のつくり方を学習する。					関山	
2	代表値	[講義] 平均値、中央値、最頻値、四分位数、百分位数などの代表値の特性を学習する。					関山	
3	散布度	[講義] 範囲、四分位偏差、標準偏差、分散、変動係数などの散布度の特性を学習する。また、絶対的散布度と相対的散布度の違いを理解する。					関山	
4	相関と回帰	[講義] 相関や相関係数の意味、相関関係と因果関係との違い、回帰と回帰直線の意味を理解する。					関山	
5	確率・順列・組み合わせ	[講義] 確率に関する定理、順列と組み合わせの違い、ベイズの定理などを学習する。					関山	
6	確率分布	[講義] 正規分布、カイ二乗 ( $\chi^2$ ) 分布、t分布、F分布、二項分布、ポアソン分布などの性質と特徴を理解する。					関山	
7	母集団と標本	[講義] 母集団と標本集団の関係を学習し、母集団から標本を偏りなく抽出する方法を学習する。					関山	
8	試験						関山	
教科書	「やさしい保健統計学 (改訂第5版第3刷)」 縣 俊彦、南江堂、2016年			参考書等	「基本からわかる看護統計学入門」大木秀一、 医歯薬出版、2016年 「量的な看護研究の基本」大木秀一、医歯薬出版、 2014年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験 (85%) 2. 学習態度 (15%)			
備考	統計学は、統計学演習のベースになる科目であり、講義内容をよく理解しておかなければ、統計学演習の講義・演習内容が理解できなくなる。したがって、講義前に教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習をしっかりとしておく必要がある。養護教諭二種免許状の申請に必要な科目である。							

授業科目	統計学演習	科目責任者	関山 友子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講semester	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	統計学で学習した内容をさまざまな場面で応用できる能力を養う。						
	到達目標	1. 統計解析ソフトの使い方を修得する。 2. 統計解析ソフトを使うためには、どのような準備が必要かを理解する。 3. 統計解析ソフトを利用して解析した結果を、どのように読むのかを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] 「統計学」で学習した内容を整理し、「統計学演習」で学ぶべき内容を理解する。					関山	
2・3	仮説検定(1)	[講義] 帰無仮説と対立仮説、両側検定と片側検定、有意水準(危険率)と限界確率、第1種の過誤と第2種の過誤などを学習する。					関山	
4・5	仮説検定(2)	[講義] 平均値の差の検定、独立性の検定の内容と意味を理解する。					関山	
6	仮説検定(3)	[講義] 分散分析法(一元配置分散分析、二元配置分散分析など)について学習する。					関山	
7	統計解析演習(1)	[演習] 統計解析を行うためのExcelおよびSPSSへのデータの入力方法を学習する。					関山	
8	統計解析演習(2)	[演習] SPSSに入力したデータを用いて、単純集計を行う方法、基本統計量を算出する方法を学習する。					関山	
9・10	統計解析演習(3・4)	[演習] SPSSに入力したデータから平均値の差の検定を行う方法、その検定結果の読み方を学習する。					関山	
11	統計解析演習(5)	[演習] SPSSに入力したデータからクロス表を作成する方法、独立性の検定を行う方法、およびその検定結果の読み方を学習する。					関山	
12	統計解析演習(6)	[演習] SPSSに入力したデータから一元配置分散分析を行う方法、その検定結果の読み方を学習する。					関山	
13・14	統計解析演習(7・8)	[演習] 質問紙調査の回答の入力方法、回答の集計の方法、特に複数回答の処理の方法を学習する。					関山	
15	試験						関山	
教科書	「やさしい保健統計学(改訂第5版第3刷)」 縣 俊彦、南江堂、2016年			参考書等	「基本からわかる看護統計学入門」大木秀一、 医歯薬出版、2016年 「量的な看護研究の基本」大木秀一、医歯薬出版、 2014年			
履修条件	なし			評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 演習時の課題レポート(15%) 3. 学習態度(15%)			
備考	統計学演習は、統計学に引き続く科目であり、統計学での講義内容を十分に習得していることを前提として展開される。したがって、統計学の内容の理解が十分でない者は、事前に再度学習しておく必要がある。教科書や配布資料、Moodle等で十分復習して定期試験に臨むこと。養護教諭二種免許状の申請に必要な科目である。							